

飲食を伴うイベントにおけるリユース食器活用に向けた実証実験 報告書（概要版）

1 イベント概要

第4回飛鳥山ハワイフェスティバル 渋沢栄一×カラーカウア王のゆかりの地
日時：令和7年10月18日（土）、19日（日） 午前9時45分～午後5時
場所：飛鳥山公園
来場者数：6万人超
出店店舗：52店舗（物販34店舗、飲食18店舗）
主催：一般社団法人東京北区観光協会

2 リユースカップの配布・回収状況

導入負担軽減のため、リユース食器の使用はカップに限ることとした。
配布店舗数：5（飲食18店舗中）
リユースカップ配布数：2,200
※飲食でを使用したもの+雨に濡れたことからレンタル業者により使用済みとして処理されたもの（個数の把握不可）を含む。
汚損破損数：87
未返却（紛失）数：60 } 全体の6.68%

3 廃棄物量の比較

昨年度と今年度では産業廃棄物回収事業者が異なり、昨年度の重量が不明であることから、ごみ袋数で比較を行った。結果は、31袋の減となった。
※昨年度と今年度で来場者数は同規模であり、ごみの分別方法、回収体制、使用したごみ袋のサイズ（90L）は同じ。

廃棄物量の減少要因としては、以下のことが考えられる。

- ・リユースカップ導入による、使い捨て容器の廃棄抑制
- ・リユースカップ導入による、廃棄物に対する意識向上（適切な分別、廃棄抑制等）
- ・天候条件（昨年度は2日間を通して晴天であったが、今年度は2日目が雨模様）

産業廃棄物	昨年度	今年度	前年度比
廃プラスチック類、金属くず、ガラス等混載	29 袋	98 袋	
廃プラスチック類のみ	100 袋		
計	129 袋	98 袋	▲31 袋

4 利用者・店舗からの意見

利用者・店舗向けにアンケートを実施したが、任意回答のため回答数が少なく（利用者8、店舗2）、参考として報告する。

今回のアンケートでは、リユースカップ自体の品質および使い心地については、利用者・店舗ともに概ね好意的な評価が得られた。環境に配慮した取組である点が評価されている。一方で、回収導線、案内表示、周知方法等の運用面については、改善の余地が大きいことが分かった。

5 委託事業者からの意見・提言

(1) 主な意見

- ・リユース食器の導入により、全体の運営コストは増加しており、単年度のイベント運営においては経済的なメリットを十分に得ることが困難
- ・スタッフによる分別や、来場者への説明、回収対応により、未返却や紛失は少数に抑えられたものの、本来の運営業務に加えて負担が生じる場面もあり、人的負担の増加が課題
- ・環境配慮の観点だけでなく、運営体制やコスト、人員配置を含めた総合的な検討が不可欠

(2) 本格導入に向けての提言

- ・イベント全体として統一した運用ルールの設定
(全ての飲食事業者にリユース食器の使用を必須とすることで、対応店舗のばらつきをなくし、来場者にとっても分かりやすくなる)。
- ・飲食事業者にも一定の費用負担を求める仕組みの導入
(当事者意識を高めるとともに、事業としての持続可能性を確保する)。
- ・ゴミステーションや返却場所における案内表示の改善
(来場者が直感的に理解できる導線を整備することでスタッフの人的負担軽減にもつながる)。
- ・事前の広報や会場内アナウンス等を通じた十分な周知
(リユース食器の取組内容や返却方法について来場者へ周知する)。